トピックス

2026 年 8 月 12 日

NTT ドコモビジネス株式会社
NTT モビリティ株式会社
株式会社 NTT ドコモ

名古屋市都心部で自動運転とオンデマンド配車システムを組み合わせた実証実験を開始

NTT ドコモビジネス株式会社(旧 NTT コミュニケーションズ株式会社、以下 NTT ドコモビジネス)と NTT モビリティ株式会社(以下 NTT モビリティ)、株式会社 NTT ドコモ(以下 NTT ドコモ)は、愛知県からの受託事業として、愛知県名古屋市都心部における自動運転の社会実装を見据えて、自動運転とオンデマンド配車システムを組み合わせた実証実験(以下 本実証)を 2026 年 9 月 11 日(金)より開始します。

1. 背景

近年、地域の公共交通における担い手不足などの課題から、国主導による実証実験が進むなど、自動運転の社会実装に向けた取り組みが加速しています。本実証では、名古屋市都心部の交通量が多く複雑な交通環境での自動運転の技術向上にむけた検証に加え、NTT ドコモビジネスが提供するオンデマンド配車システムと自動運転車両に搭載した自動運転ソフトウェアを組み合わせた検証を行います。

これにより、利用者の予約状況や予約内容などに合わせて 3 台の自動運転車両を最適に配車するシステムを構築し、自動運転の社会実装を見据えた技術面および運用面の検証を行います。

2. 本実証の概要

本実証では、交通量が多く、利用者も多い名古屋駅前(総合校舎スパイラルタワーズ)、STATION Ai、愛知芸術文化センター、IG アリーナ前(名古屋造形大学)、ＦＵＪＩなごや科学館の 5 カ所の乗降地点を含むルートを設定します。このルートを名鉄タクシーホールディングス株式会社(以下 名鉄タクシーホールディングス)による運行支援のもと、3 台の自動運転車両が走行するとともに、自動運転車両に搭載された自動運転ソフトウェアとオンデマンド配車システムを連携させ、予約に応じて各乗降地点へ配車し、従来のタクシーに近い運用を実現します。これにより、自動運転の技術向上に加え、自動運転の社会実装を見据えた利用者の利便性面や交通事業者の運用面の課題抽出を行います。

なお、本実証の運行期間は、2026 年 9 月 11 日(金)から 2027 年 3 月 19 日(金)までを予定しており、土・日・祝日および年末年始を除く平日のみを予定しています。

本実証の特長は以下の通りです。

(1) 自動運転技術の向上

米国での無人自動運転運行の実績を有する May Mobility, Inc. (以下 May Mobility)の自動運転ソフトウェアを用いて、自動運転レベル 4[※1] の社会実装に向けて課題となる交差点通過時の走行制御の向上を図ります。交通量の多い名古屋市都心部において、右折時に対向車を検知した際の走行制御や信号が変わるタイミングの予測精度の向上に関する技術検証を行い、自動運転の高度化をめざします。

(2) 自動運転ソフトウェアとオンデマンド配車システムの連携

オンデマンド配車システムを組み込んだ名古屋鉄道株式会社(以下 名古屋鉄道)が提供するなごや MaaS[※2] アプリ「デライド」と自動運転ソフトウェアを連携させ、利用者の予約に合わせて各乗降地点に最適に車両を配車することで、利用者の移動ニーズに柔軟に対応する自動運転の実現に向けた運用を検証します。

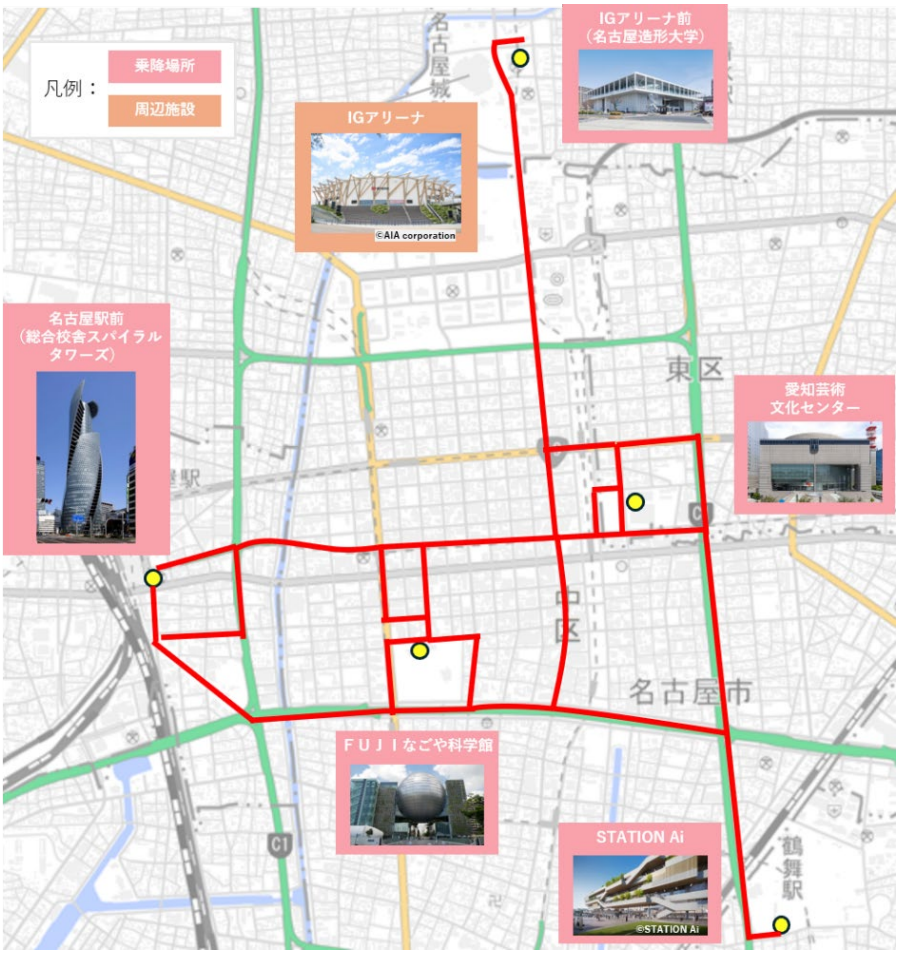
(3) 対話 AI キャラクターによる乗客案内

将来的に乗務員のいない自動運転レベル 4 での運行における利用者対応を想定し、車内に設置したタブレットシステムで新たに対話 AI キャラクターによる案内を行います[※3]。事前のアンケートから利用者の乗車目的や知りたい情報を把握し、対話 AI キャラクターによる自然なコミュニケーションを通じて、必要な情報を適切なタイミングで提供します。乗務員がいなくても安心して利用できる自動運転の実現に向けて受容性の検証を行います。



<本実証で用いる自動運転車両のイメージ>

本実証で用いる自動運転車両のデザインは、名古屋駅前の乗降地点であるスパイラルタワーズを校舎とする学校法人日本教育財団（国際工科専門職大学（名古屋キャンパス）・HAL 名古屋）と IG アリーナ前の乗降地点にある名古屋造形大学の学生のデザインで学内コンペティションを経て、制作したものです。



<走行ルートのイメージ※4>

3. 各者の役割

各者の役割は以下の通りです。

企業名	主な役割
愛知県	本実証の実施主体・統括
NTT ドコモビジネス	本実証のプロジェクトマネジメント、オンデマンド配車システムの提供および自動運転ソフトウェアとの連携
NTT モビリティ	自動運転車両の提供および導入・運用支援
NTT ドコモ	対話 AI キャラクターおよび車内タブレットシステムの提供
May Mobility	自動運転ソフトウェアの提供
名古屋鉄道	なごや MaaS アプリ「デライド」の提供
名鉄タクシーホールディングス、名鉄交通第一株式会社、名鉄交通第二株式会社	交通事業者としての運行支援

学校法人日本教育財団 国際工科専門職大学(名古屋キャンパス)、 HAL 名古屋	地域事業者としての実証支援、車両デザイン、チラシ・ポスターデザイン、PR 動画の作成、対話 AI キャラクターデザイン
名古屋造形大学	地域事業者としての実証支援、車両デザイン

4. 今後の展開

本実証を通じて得られた知見をもとに、今後も NTT ドコモビジネス、NTT モビリティ、NTT ドコモは、名古屋市都心部での自動運転の社会実装に向けて、地元自治体や交通事業者などの関係者と連携しながら検討を進め、地域の交通課題の解決に取り組みます。

自動運転車両の予約や利用に関する詳細は、専用 Web サイトよりご確認ください。
https://maas.meitetsu.co.jp/nagoya/aichiauto/

「NTT コミュニケーションズ株式会社」は 2025 年 7 月 1 日に社名を「NTT ドコモビジネス株式会社」に変更しました。私たちは、企業と地域が持続的に成長できる自律・分散・協調型社会を支える「産業・地域 DX のプラットフォーマー」として、新たな価値を生み出し、豊かな社会の実現をめざします。

つなごう。驚きを。幸せを。
docomo Business
https://www.ntt.com/about-us/nttdocomobusiness.html

※1：自動運転レベル 4 とは、特定の運行条件のもとで、車両が自動的に運転を行い、運転者が乗車しなくても運行可能な自動運転技術レベルのことです。

※2：MaaS とは、「Mobility as a Service」の略で、「サービスとしての移動」として、電車やバス、タクシーなど複数の交通手段をひとつのアプリなどからシームレスに利用できるサービスのことです。

※3：対話 AI キャラクター機能の提供は、実証期間の後半を予定しています。

※4：走行ルートのイメージは、地理院タイル（淡色地図）を加工して作成しています。

【本件に関する報道機関からのお問い合わせ先】

NTT ドコモビジネス株式会社
経営企画部 広報室
ML：pr-cp@ntt.com

NTT モビリティ株式会社
コーポレート部
ML：contact@ntt-mobility.com

株式会社 NTT ドコモ
クロステック開発部モビリティ技術開発担当
ML：aichi_adv_contact@ml.nttdocomo.com